とロンドンの日本大使館が計四点を買上げ、成功裡に閉会した。作のうち一一四点の売約がなされ、フランス政府が十三点を、パリた。七月二十五日の閉会までに三八、二二八人の入場者があり、新

⑤ 青山新の海外旅行

旅行地、旅行目的等は左記の上申書案(四年職員関係書類職務」に収教授のもとで研究を続け、昭和四年に助教授となった。 選十四年十一月から約一年間助手(美術史研究室勤務兼 文 庫 掛 勤翌十四年十一月から約一年間助手(美術史研究室勤務兼 文 庫 掛 勤翌十四年十一月から約一年間助手(美術史研究室勤務兼 文 庫 掛 勤 報授のもとで研究を続け、昭和四年に助教授となった。

∞。七月八日発送)に次のように記されている。 旅行地、旅行目的等は左記の上申書案 (『ºº珥職員関係書類 竺՛՛՛՛՛՛՛՛՛՛՛ํํํ′′゚゚゚゚゚゚

条

教官外國出張ノ件上申

出 張 地 ソヴイエート聯邦、英吉利國、希臘國、土耳古國、官 氏 名 東京美術學校助教授青山新

及、西部亜細亜地方(パレスタイン、シリヤ、イラ

ク)波斯國、印度

ル豫定ニテハケ月間ナリ 昭和四年八月一日出發シ昭和五年三月末日迄ニ帰還ス

出張ノ目的

助教授青山新ハ西洋美術史ノ專攻者ニシテ其ノ研究上古代ニ溯

影等ノ方法ニョリ廣ク其等ノ研究資料ヲ蒐集セントスル目的ヲ遺留ノ古美術品又ハ遺迹ヲ實地見学シテ史的考察ニ資シ寫眞撮國ノ美術ガ歐洲ニ流入シテ種々ナル影響ヲ及ボシ相互的ニ交錯國ノ美術ガ歐洲ニ流入シテ種々ナル影響ヲ及ボシ相互的ニ交錯

究補助トシテ若干ヲ給セラル、見込出張旅費 本校々館費ノ内ヨリ支給シ外ニ財團法人啓明會ヨリ研

以テ本出張ヲ要スルナリ

右記述ノ事情ニ付靑山新ニ歐洲其他各地へ出張ノ御發令相成度此

段上申候也

年月日

文部大臣宛

日

学校長

円を旅費に充てることと、次のような旅程が記されている。青山自身の「海外研究旅行予定」には啓明会よりの補助費六千八百なお、海外旅券請求文書(七月十七日発送)案に添付されている

(往路) シベリヤ經由

ソヴィエート聯邦 滯在一ヶ月

埃

ポーランド 獨逸 白耳義 和蘭

佛蘭西

英吉利

滯在一ヶ月

スウィス 伊太利 チ

工

ツコ

スロ

ヴァキヤ

墺太利

洪牙利

ユ

ーゴースラヴィヤ

希臘

滯在

一ヶ月

第2章 制度確立期 42

パレスタイン 滞在一ヶ月

印度 滯在一ヶ月

イラク

滯在一ヶ月

(歸路

五月六日であった。 十二月十日テヘラン到着。十日ほど滞在し、 に辞任している。 に各国の遺跡をめぐり、 ル・イ・シリーンを旅して大晦日にテヘランへ戻った。その後さら ダーンに行き、 を整え、モスクワへ行き、 部を知ることができる。 校友会月報』第三十巻第二、三、五、六、八号、第三十一巻第一、 二、四、 伏見丸で出発した。この大旅行については帰国後『東京美術学校 ヤ経由が露支間情勢悪化のため変更となり、彼は八月一日神戸よ 十年本校教授、 キエフ、オデッサ、 道 は時に三十才。 六号に寄稿した「ペルシア旅行記」

(一)

(人) 四日間滞在し、 同二十年に至り、このペルシャ旅行における収穫 翌六月には帝国美術院附属美術研究所所員とな 帝国美術院 新進気鋭の学徒であった。予定していたシベ クリミア半島、 彼はロンドン滞在中にペルシャ旅行の準備 多数の資料を携えて帰国したのは昭和五年 十一月十七日に目的地 ビストウン、 主事となったが、 バクー、 ケマルシ カズヴィンを経てハマ 本校の方は同年内 パーレヴィを経 へ向けて旅立 ヤ 1 カ 9

関する本邦人最初の仕事として高く評価された。に基づいて『イラン芸術遺蹟』(美術書院)を出版し、イラン美術

斎藤佳三の中国派遣

が判る。 した。 は」とて斎藤を推薦したので、 次が選ばれた。 られ、先ず渡辺香涯が候補に上がったが、彼が辞退したため田辺孝 ら外務省文化事業部に本件に関する依頼があり、それが正木に伝え れることになった。 の依頼により南京政府直轄の国立芸術院の図案科教授として派遣さ 昭和四年八月、 同年十月一日の しかし、 図案科講師斎藤佳三(本名佳蔵)は正木直彦校長 正木の『十三松堂日記』を見ると、 田辺は「意動きたれと圖案科にあらさ 『東京朝日新聞』 斎藤が行くことになったという経 はこれを次のように報道 杭州領事か

初の邦人教授 支那の藝術院へ齋藤氏招かる 新設圖案部主任に 國民政府最

方を外務省に賴んで來た科圖案部を新設し、主任教授を日本から招聘することゝなり推薦一昨年支那杭州西湖畔に建設された國立藝術院大學では今回美術

考中のところ現同校講師で新進工藝美術家齋藤佳三氏を選定推擧人選上極めて愼重な態度をとり一切を正木美術學校長に託して選國民政府になつてから邦人教授派遣はこれが最初で同省ではその

氏はかねてより組織工藝の研究で聞え昨年帝展には一大室内組織

した